昭和 14 年秋田県男鹿地震における震災後貴重映像の発掘とその活用

東急建設株式会社　正会員　○梅津　愛
東急建設株式会社　フェロー会員　渋沢重彦
特定非営利活動法人　建設教育研究推進機構　フェロー会員　大野春雄
独立行政法人　鉄道建設・運輸施設整備支援機構　大沢美春
東京地下鉄株式会社　正会員　平野　隆

１．はじめに

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により甚大な被害を受けたことは記憶に新しいところではあるが，過去の災害から命を守る方法を学ぶとともに，鉄道や港湾施設の被災および復旧状況などを後世に伝承していくことも重要である．そこで，地震発生直後の被災状況などをまとめた新聞記事などの紙媒体の活用が考えられるが，当時の状況を記録した映像は，さらに有効な手段となる．

現在，土木学会土木技術映像委員会では，過去の災害記録を収集，整理し，広く公開しているが，今回，金森誠之土木学会文化映画委員会初代委員長のご遺族より昭和 14 年(1939 年)に発生した秋田県男鹿地震直後に当時の土木学会が撮影した映像（**写真-1**）の提供を受けた．当委員会では，この貴重映像の活用を進めるため，秋田県内の関連団体を対象として男鹿地震に関する資料の保存状況，さらに，地域住民に対する災害教育の実施状況を調査した．本報は，その調査の概要をまとめたものである．

２．映像の概要

・タイトル：秋田県男鹿地方地震の被害
・企画・製作：土木学会文化映画委員会
・制作年：昭和 14(1939)年
・映像時間：16 分 02 秒（無音）

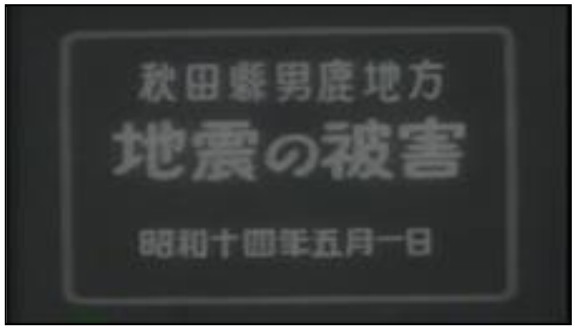

写真-1「秋田県男鹿地方地震の被害」のタイトル

この映像は地震が発生した直後の現地の様子や，当時の土木学会から派遣されたと思われる視察団の様子が克明に記録されており動画としては唯一まとまったものである．例えば，秋田市の土崎港の被災および復旧状況（**写真-2**）や，浅内村の溜池の堰堤の復旧状況（**写真-3**），さらに奥羽本線の盛土区間で発生した土砂崩れの応急復旧状況（**写真-4**）が克明に記録されており，当時の市民生活を支える社会基盤の被災および復旧状況などが確認できる．**表-1** に映像に記録された内容を示す．

表-1 秋田県男鹿地方地震の被害　映像内容

ｼｰﾝNo.	分割タイトル（記録された地域）	記録時間
1	オープニングタイトル	0:01～0:30
2	土崎港	0:31～1:59
3	船川町付近及び船川港	2:00～6:24
4	北浦町付近	6:25～10:03
5	五里合（いりあい）村	10:04～11:02
6	浅内村	11:03～12:42
7	奥羽本線　森岳－機織間	12:43～15:59
8	エンドロール	16:00～16:02

写真-2 土崎港の被災，復旧状況

写真-3 浅内村の堰堤の復旧状況

写真-4 奥羽本線の応急復旧状況

キーワード　男鹿地震，映像活用，被災状況，復旧状況
連絡先　〒150-8340　東京都渋谷区渋谷 1-16-14　東急建設㈱土木技術設計部　ＴＥＬ03-5466-5272

３．調査概要

①秋田魁新報社

秋田魁新報社社会部では，当時の被害状況や復旧作業の様子を克明に記録した新聞記事[1]（**写真-5**）が多数あることが確認できた．その他，秋田大学地域創生センター地域防災部門長・水田敏彦教授による男鹿地震の被害に関する文献調査[2]等の資料が存在することも確認できた．

②男鹿市ジオパーク学習センター

男鹿市役所と同市が運営する男鹿市ジオパーク学習センターでは，秋田県発行の「昭和十四年男鹿地方震災誌」を実見できたほか，元五里合(いりあい)村長である薄田太三郎氏の日記[3]（**写真-6**）や秋田県仏教会発行の「男鹿昭和地震録」，旧船川町の議案綴など震災当時の様子を克明に記録し，復興に向けた対応や地震の教訓を記録した貴重な資料を多数確認することができた．また，地震直後に五里合小学校教諭が作った「復興歌」は，被害からの再起を誓う住民の願いを歌ったものであったが，東日本大震災をきっかけに，男鹿地震を語り継ぐ有効な手段として再発見となり 74 年後の平成 25 年 5 月 1 日に復活した．

③秋田防災学習館

秋田防災学習館では，秋田県の子供達なら一度は訪れると言われるほど，防災に関する知識や技術を学習することができ，また東北地方に古くから伝わる防災についての教訓などを伝承し，同市でも災害に対しての啓蒙に広く取組んでいることが確認できた．

写真-5 秋田魁新報社の当時の記事[1]

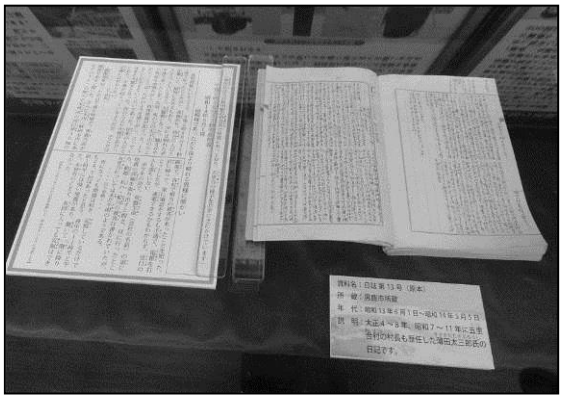

写真-6 当時の様子を記録した五里合村長の日記[3]

４．おわりに

今回の調査では，秋田県男鹿地震に関する貴重な資料の存在を改めて確認することができた．また，現地における男鹿地震の認識の高さを実感することができた．男鹿市教育委員会生涯学習課では，震災の記録を伝承し風化させないための映像の活用について前向きに取組んで頂けることが確認できた．今後，男鹿地震発生の 5 月 1 日に合わせて秋田魁新報社の記事として当時の様子を記録した映像の存在を地元に広報することをはじめに，産官学主導の映画会の開催，映像から得られた知見の発表などを行い，現地における防災意識の高揚と全国的に近年多数発生している地震災害などへの対応の一助として貴重な映像を有効に活用していきたいと考えている．

【謝辞】今回の調査に貴重な時間を割いて御協力頂いた秋田魁新報社社会部の小松次長，男鹿市教育委員会の加藤課長，畠山主幹，斉藤主任，男鹿市ジオパーク学習センターの菊池氏，秋田防災学習館の方々に深く感謝申し上げます．

参考文献

1）秋田魁新報社「秋田魁新報 男鹿地震当時の新聞記事」多数.

2）水田敏彦・鏡味洋史：1939.5.1 男鹿地震の被害分布に関する文献調査，日本建築学会技術報告集, 33, pp817-820, 2010.

3）男鹿市ジオパーク学習センター所蔵資料類.